

岡山市市民協働フォーラム

岡山市の 協働条例を考える

協働で解決する。そのための仕組みづくりに向けて。

石原達也 主な仕事

NPO歴13年 NPO支援歴11年



NPO法人 岡山NPOセンター 副代表理事

社会事業の経営支援。NPOの事務や運営支援（事務支援センター）、協働による調査事業、政策提言の支援（岡山市など）、企業CSRの支援、大学における社会参加支援、指定管理（市民活動センター）、中国5県中間支援組織連携会の幹事役 など



公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま 理事

市民立の財団。市民寄付の仲介、市民団体の寄付募集支援（割り勘）、円卓会議、ソーシャルライター、橋守基金 など



NPO法人 みんなの集落研究所 代表執行役

集落のためのシンクタンク。境界線の生活課題調査、移住受入ワークショップ、集落がもつ資源と民間企業や社福とのマッチング、助け合いなどの地域互助の支援、協力隊育成 など

岡山市・NPO協働推進協議会

- 平成24年度に公募。謝金等は無く手弁当で
- 岡山市の協働推進に関するレポート提出。
- どうすれば協働が進むかを検討
- 職員さんとの合同研修を企画し協働を学ぶ
- 協働のQ&A作成や課題解決の会議を運営
- 平成25年度末に市長に提案

H24年度 庁内組織（WT）の設置

NPOの協議会を設置（公募）

合同研修、協働できますリスト

H25年度 協働Q&Aの作成

協働モデル事業トライアル（調査）

協働フォーラム（社会課題検討）

市長への提案書提出

H26年度 協働モデル事業本格スタート

ESD市民活動推進センターの設置

条例改正の検討開始

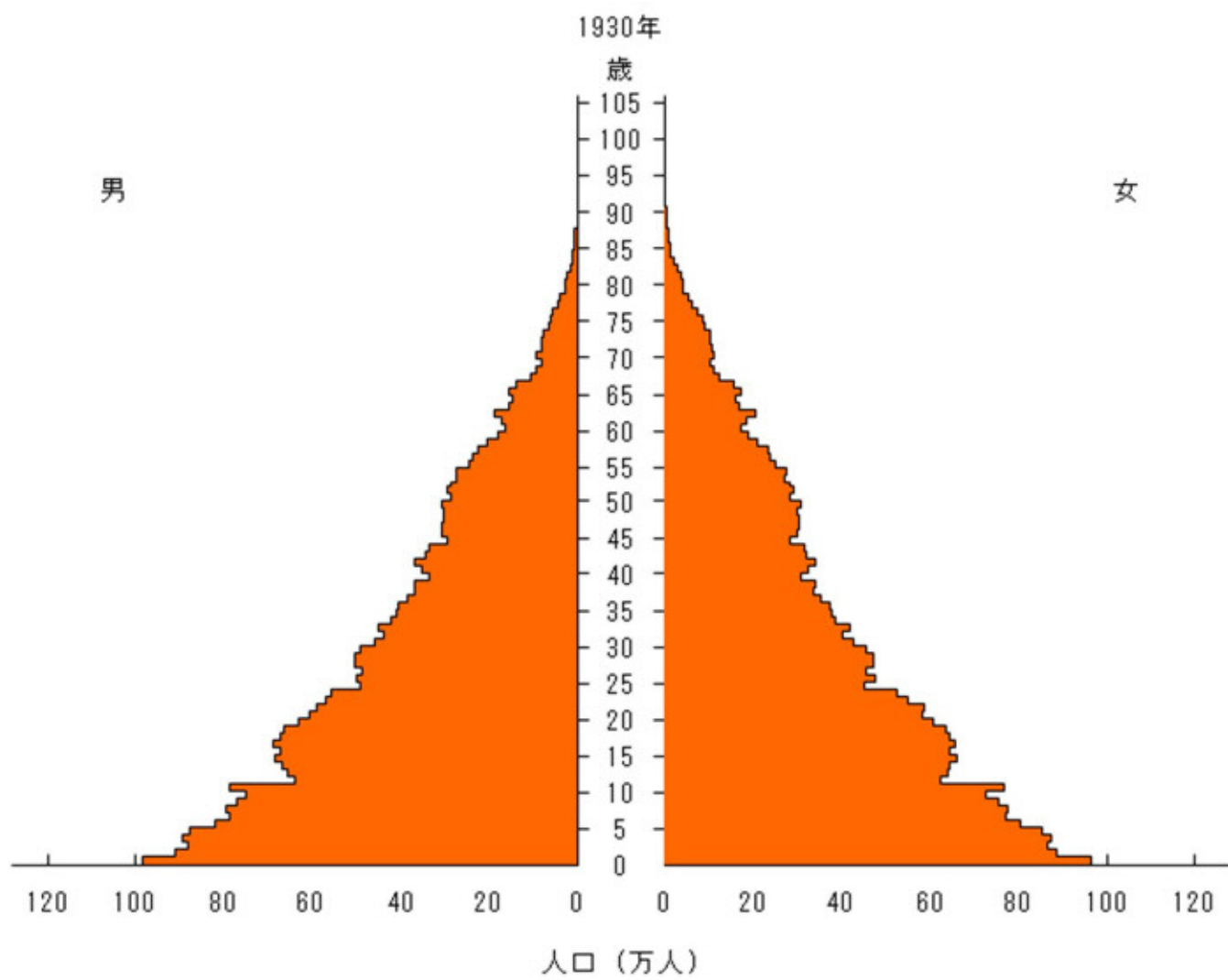
【提案内容の構成】

1. 協働のルールづくりについて
2. 協働推進のためのコーディネート及び
相談センター設置について
3. 協働推進のための人材育成について
4. 社会課題の解決を協働で考える
場づくりについて
5. 協働推進のための委員会設置について

協働

[名] (スル)同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。

デジタル大辞泉



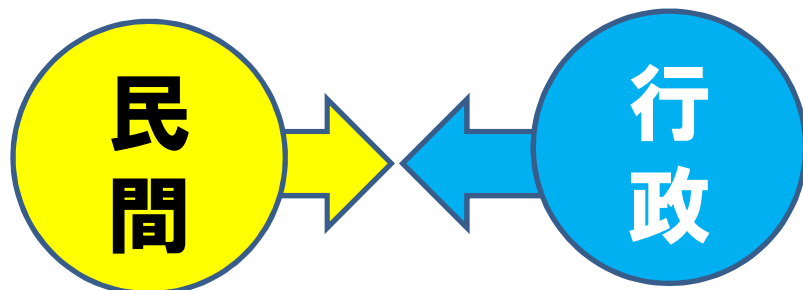
共助社会づくりの重要性

我が国経済を再生し、成長を持続的なものとするためには、「**すべての人材が、それぞれの持ち場で、持てる限りの能力を活かすことができる「全員参加」**」が重要であり、自助・自立を第一としつつも、自助・共助・公助のバランスのとれた政策を検討していく必要がある。**公助について財政上の制約**がある中で、地域の課題に対応し活性化を図っていくためには、**共助の精神によって、人々が主体的に支え合う活動**を促進することで、活力ある社会にしていくことが必要である。

内閣府・共助社会づくり懇談会より

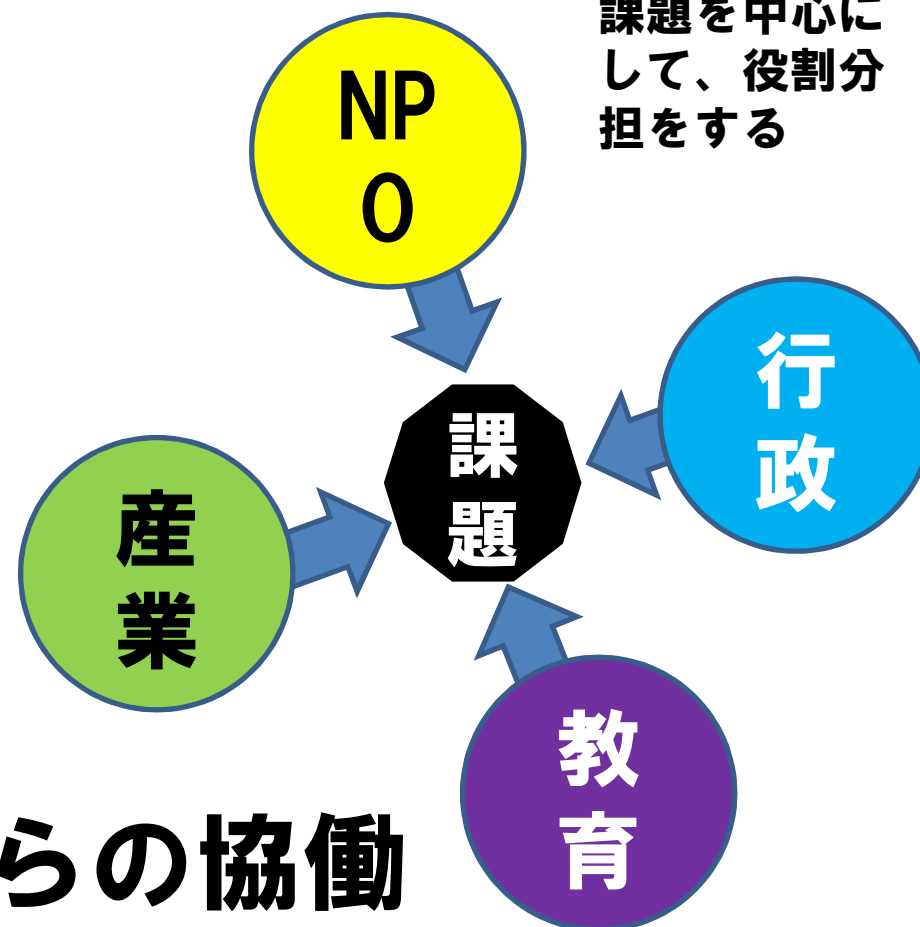
課題を中心に分担する

これまでの協働



お互いの「したい」を
持ち寄って、一緒に

課題を中心にして、役割分
担をする



これからの協働

協働

＝地域課題解決の手段。

より効率的で持続的な課題解決を

地域の多様な主体が、

対等の立場で協力して共に働くことで実現する。

➡ ESDに取り組む岡山だからこそ！

岡山ESDプロジェクト

～これからに向けて～

2015年3月14日

岡山ESD推進協議会事務局



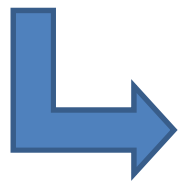
目的 持続可能な社会の実現に向け、共に学び、
考え、行動する人が集う地域づくり

〈目標〉

- 持続可能な社会づくりに対する知識や理解の普及
- 主体的に取り組む人の輪を地域全体に広げる。
- 推進組織の育成、能力向上

〈主な取組〉

- 活動助成 H17~26 市民団体 計230 H23~26 1ねこスクール 計132
- 公民館ESDコーディネーター研修
- ESD教材事例集・公民館実践集
- ESDウィーク、交流会 など

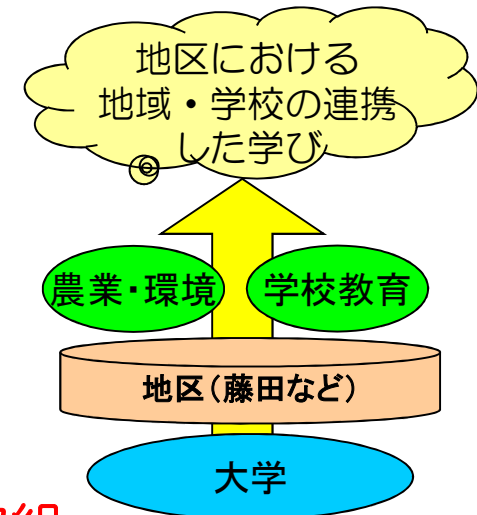
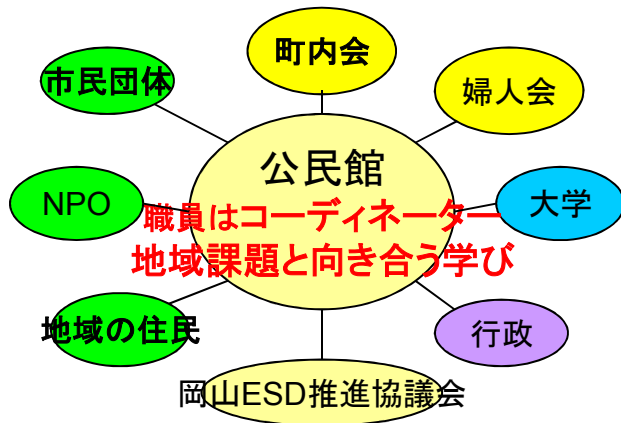


活動団体（重点取組組織）が増える
2005年 48組織 → 2014年 228組織

成果

ESD岡山モデルとしてユネスコ世界会議で発信

- (1) 地域を拠点とした市域全体での取組
～公民館、ユネスコスクールを核に推進～
- (2) あらゆる世代、多様な団体が参加
- (3) 専従コーディネーターや大学による継続的な支援



ESDを進める基盤整備中心の取組

新たなプロジェクト基本構想(案)

実施するのは

岡山地域でESD推進に賛同する各組織、団体などすべて。

→みんなのプロジェクトです。協議会を設置して推進します。

協議会事務局は当面、(仮称)岡山市ESD推進課に置きます。

期間

10年を展望し、2015～2019の5年間

地域

岡山市を中心とした地域(行政区域に関わらず流域、都市圏で連携)

目的

- 岡山地域と地球の未来について、共に学び、考え、行動する人が集う岡山地域を実現する。
- 岡山地域での取組を通して、世界中で、環境・経済・社会各分野において調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する。

重点取組分野と主な取組

「若者」「地域コミュニティ」「企業」「顕彰」などに取組む。

8つの分野

- ◎持続可能な地域の姿の共有
- ◇ユース・人材育成
- ◎地域コミュニティ・公民館
- ◇学校
- ◎優良事例の顕彰
- ◇ESD活動の拡大
- ◎企業の取組促進
- ◇海外国内との連携

主な取組（例）

- ◎地域の将来像を学ぶワークショップ
- ◇ESD人材育成研修
- ◎社会課題解決の協働取組
- ◇全小中学校対象のESD研修
- ◎岡山ESDアワードの創設
- ◇公共施設以外へもESD拠点
- ◎環境マネジメント・CSR推進
- ◇公民館とアジアCLCとの連携

↓

主な内容

岡山市長挨拶

1. 岡山の様々なモデル（ユネスコスクール、公民館）を世界に発信できた
2. おもてなし
3. 岡山市民・県民の心にESDの心が芽生えていったこと
 - 昨年の会議のまとめ
 - これからをどうするのか

環境省

人材育成、教育プログラムなど
4つの課題。

特に、官民協働のESD推進センター、
推進ネットワークが必要との議論。現
在、支援体制の検討中。

岡山市のこれからのESDを市民で共有
する会。

文部科学省生涯学習政策局

公民館CLC。世界の取り組みが共有され、岡山コミットメントが出された。

10年前から提唱してきたESD。長く粘り強く続け、世界で認められてきた。

地方創生。いかに地域を盛り上げるか。地域の課題解決に住民がNPOや行政と協働しながら取り組む。そこで公民館、ESDが重要。

社会のステージを変え、
つながりで
解決を実現する社会に。

→それを推進するためのルールをつくる！

協働は今からは始める
ことではなく、
すでに実施していること。

それをより推進するために、
ちゃんと現場が変わるためのものを、
現場からの組み立てで！

NPO・行政職員の
「協働が進まない理由」

企業・大学の
「協働が進まない理由」

地縁組織の
「協働が進まない理由」

アンケートと
ワークショップで収集

現実をちゃんと変える！

協働は、法が禁じること以外すべて可能(IIHOE・川北氏資料より)

業務の顧客	直接、県民に (個人・法人)	市町村を通じて 県民に	原則として すべて庁内
県の場合	産業、環境、教育、福祉、国際、広報、建設、水道、交通、林業、税務・・		財政、人事、監査・・
基本原則	多老化に伴う「サービス需要増+税収減」状況を支え続けるために、協働できることをひとつでもより早く効果的に増やし続ける	多老化に伴う「サービス需要増+税収減」状況を支え続けるために、協働できることをひとつでもより早く効果的に市町村と増やし続ける	「より効果的に県民と庁内に貢献する」ために、県民から意見・協力を求めて業務改善を積み重ねる
具体的な進め方	中期目標+計画+実務(PDCAの対象に)交流・表彰の機会: 案件形成、相互学習官民合同でスキルの向上 高齢者・外国人等への説明・支援協力! (県民対象に「行政のしくみ」解説も)		意見・協力募集 (例: 効果測定、研修協力)

協働が進まない5つの理由

①目標と計画がない

→ トップも現場も本気じゃないから??

②流れもルールも決まっていない

→ 他地域研究や「協働スケジュール」がないから！

③推進するツールや体制がない

→ 中期的な目標も、ニーズ調査もないから！

④評価・監査されていない

→ 継続的な改善と、トップの関与がないから！

⑤NPOが協働していない

→ お互いに関心がなく、仲が悪いから！？

詳しくは「NPOマネジメント」第69号参照

※IIHOE・川北氏資料より

条例の内容



目標と計画



解決の取り組み（施策）



現場の課題

【今日のゴール】

現場が変わり、具体的に協働がすすむものにするために、取り組みから積み上げて、事業→計画→条例の案を考える。

本日の流れ

- (1) 集まった課題から解決のための取り組み、
施策、事業を整理する
- (2) それらの取り組みで実現する
3年後の目標と計画をつくる
- (3) その目標と計画を法律・規則として
位置付けるための条例文案をつくる